



静岡県掛川市の 家庭教育支援について ～すべての保護者に届く アウトリーチ型支援～

掛川市教育委員会教育政策課 大石博之・鈴木光子

家庭教育支援への取り組みの背景

進む核家族化

- ①三世代世帯の割合**減**
- ②核家族の割合**増**
- ③共働き家族の**増**

世帯の種類と割合

（単位：％）

	三世代世帯	親と未婚の子のみの世帯	夫婦のみの世帯	単独世帯	その他の世帯
掛川市H22	16.2	37.4	17.7	22.6	6.1
掛川市H27	13.0	37.6	19.2	24.8	5.4
（参考）全国H28	5.9	36.8	23.7	26.9	6.7

（引用：国勢調査、平成30年度国民生活基礎調査概況）

参考データ：住民基本台帳（令和2年11月末） 人口116,938人、世帯45,744世帯

➡ **家庭の教育力の低下を懸念**



掛川市の家庭教育支援

I 家庭教育支援を、市主要事業にして取り組んできた

「**かけがわお茶の間宣言**」で
市民総ぐるみの教育を推進。
 市教育振興基本計画の主要施策

（3つの宝）
 に位置づけ。

宣言PRと併せて、
 家庭での家族のふれあい
 から生まれる心温まるお話
 やエピソードを募集する
 「**心がほっこりお茶の間
 トーク**」を毎年実施。

「お茶の間」は、新しい言葉を知る私の小さな国語のじゅ業。

家族がわかる野球の話。ほくのエラーを家族は楽しく「ヒット」にかえる。

しょうぎやろう、竹ぶえ作ろう、ナイフでえん筆けずるのもじいじが教えてくれたんだ。

兄弟でチャンネル割い合っの夕ご飯。だけどけきょく父の一言「ニュースにしろ」

あのね、あのね、おはなしたいことがたくさんあるよ。ぼぼまねえねじゃんびOK!?

人づくりの土台は、「お茶の間」にあります。誕生から、子育てや学びなど、人としての在り方を「お茶の間」で学ぶとこころに出発します。そして、学校や地域、社会に出て、多くの人とのかかわりから学び、また「お茶の間」に戻って安らぎやこころを生まれていきます。「お茶の間」は家族が集い、語り、学び、伝え、そして育むとこころ。お茶どころに居る私たちは、「お茶の時間」を今これこそ「やがて」家族の団らんから生まれる制度をもとに、豊かな心のある人づくりにつなげていきます。ここに私たちは、我が家の「お茶の間」づくりを宣言して、このことを宣言します。

平成26年1月12日宣言

かけがわお茶の間宣言

子どもたちの未来のために、今私たちができること。

ほく3さい、ほくがわえはかぞくもえが、

「お茶の間」は、家族と一緒に楽しさで悟悲しさ半分

インターネットを使わずに、おじいちゃんおばあちゃんに聞いてみよう!!

家に着いて玄関をあける。「ただいま、今日ね…」とさっそく近況報告発表会。

弟とけんかはするけれど、だいすきだ。こんどこそやさしくすると、でもけんか。

みんなが笑うと私も笑う、私が笑うとみんなも笑う。笑顔でつながるコミュニケーション。

お茶の間で、心豊かな子に育ち、親となりて子を見て、改めて知る親の深い愛

市民から集めたお茶の間宣言 第2弾(12回) 平成28年11月19日

掛川市教育委員会

II 市と社会教育委員会が、タッグを組んで取り組んできた

社会教育委員会の
3回6年にわたる提言・答申。
市民意見・アイデアの施策反映。

かけがわ家庭教育
 市民総ぐるみで子育てを

か	ていしょういくで
け	んこうで、やさしく、かしこい子に
が	んぼるのはママだけじゃなく
わ	たしの、ほくのまわりのみんな!

できるよ!お茶の間宣言

和 やかな家庭で
 学びの始まりは親のマネから

愛 情いっぱいの笑顔で
 楽しもう! みんなで子育てを!!

和 学 愛 楽

「和・学・愛・楽」で親になる、家族になる

掛川市社会教育委員会

社会教育委員会の
 提言から生まれた
 かけがわ家庭教育
 「**和・学・愛・楽**
 （わがくあいら）」。
 新小学1年生には、
 クリアファイルを配布。

掛川市の家庭教育支援（アウトリーチ型支援）の概要

Ⅲ 市民有志（現、家庭教育サポートチーム「つなぐ」）と市が、強く連携して取り組んできた

○2つの家庭教育ボランティアグループが増える派遣ニーズへの対応や活動の場の共有のために統合し、令和2年度に誕生。

子育てサポーター（H16～市で登録、活動。主に幼稚園）

家庭教育支援員（H27～県で養成、市で活動。主に小中学校）

○悩みを抱えながら子育てしている保護者の思いを受け止め、軽減を図ろうと活動展開。

○**保護者同士をつなぐ**
保護者と園・学校、地域、機関をつなぐ
つ…つまずいた時
な…なんでもよいから話して
ぐ…ぐっど（GOOD）な子育て

○幼・小・中と続けて支援。信頼を得ていく。

人数	家庭教育サポーター40人
活動	① グループワークの中でのファシリテーター（懇談会など） ② 講話（親学講座など） ③ 相談サロンにおける相談員
派遣先	幼稚園・保育園・認定こども園・小学校・中学校・子育てサロン・支援センターなど ※選択制
登録	2年間
研修	年4回（うちスキルアップ研修2回）
謝礼	基本：1時間750円×2時間（1,500円）
事務局	市教育委員会（社会教育指導員2人）

掛川市の家庭教育支援（アウトリーチ型支援）の仕組み

家庭教育サポートチーム「つなぐ」

サポーター40人
経験多様なメンバーです！

社会教育委員

PTA役員



主任児童委員

元教員

PTA役員や退職教員、
ボランティアに声を掛けて
新サポーターを勧誘しています。



活動依頼、事前打合せ
（学校状況・要望含む）
謝礼支払、研修会開催

懇談会などでの
グループワーク
や講話



保護者



学校・教員

学年・クラスの
様子、学校の
希望

懇談会準備
など教員の
負担軽減



事務局

（元教員）

掛川市の家庭教育支援（アウトリーチ型支援）の活動内容

活動①保護者の集まる場（懇談会等）に出向いてのファシリテーター



静岡県「つながるシート」を使って話し合いを進めます。



保護者4～5人にサポーター1人。10人以上の派遣も対応しています。



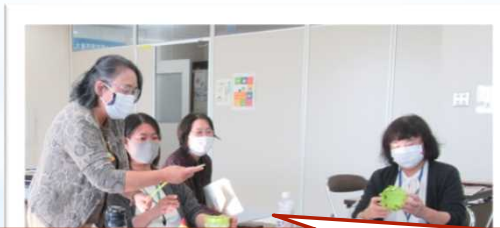
おしゃべりを通じて、保護者同士をつなげていきます。

活動②講話、親学講座



子育てを振り返り、またがんばろうと意欲の湧くお話をします。

活動③おしゃべりサロン



懇談会に参加できない方のために土日開催。個別相談もOK。

年度	派遣数	回数
H27	2校10園	13回
R元	22校9園	49回
R2予定 (当初予定)	20校5園	48回
R2.12 (コロナ影響)	5校2園	15回

※ 市内ほぼ全ての小学校へ派遣。

掛川市の家庭教育支援（アウトリーチ型支援）の成果

参加者の声

休校中、みんな同じような悩みで過ごしていたことが分かった。私だけでなく、安心した。

お友だちのお母さんとお話する機会が無かったから嬉しかった。話せてすっきり。

感想アンケート結果から

- 参加者同士で話し合ったことは「大変よかった」「よかった」9割
- 子どもとの関わり方を考えるきっかけになった 9割
- 「コロナ禍 みんな同じ悩みで安心した。」

とにかく「褒める」ことの大切さを知りました。私もやってみよう。



話し合うことで保護者同士がよりつながったり、自分の子育てを見つめ直すよい機会となっている。

学校の声



- ・若い先生方が多く、懇談会の運営が難しいので助かる。
- ・保護者同士が知り合い、つながると嬉しい。

- 学級の課題や保護者の悩みと合致したテーマで話し合えた。
- 保護者の生の声を聴けた。
- 授業準備に集中できた。

サポーターの声

私たちも、子育てに悩んでいました。笑顔が嬉しい。



掛川市の家庭教育支援（アウトリーチ型支援）の課題

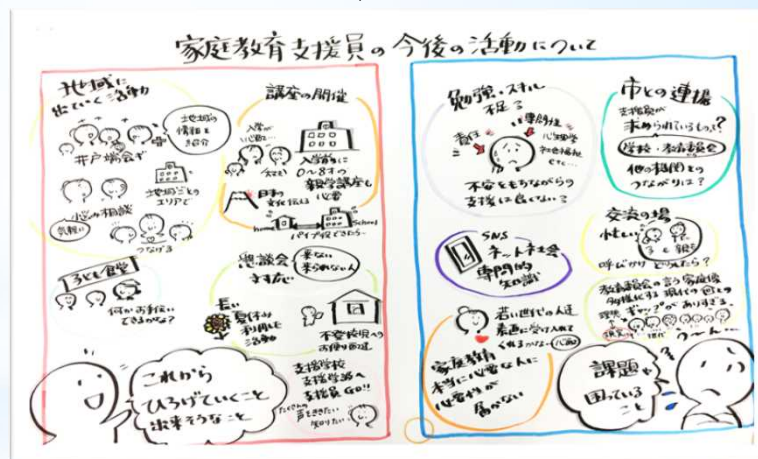
今後の課題 ～これからの活動に向けて～

① コロナ禍でも**安心して活動**できる工夫

② 活動の場の**拡大**
（幼・小・中学校から、保育園・こども園へ）
→ **活動PR**

③ **地域**の活動との**連携**
→ **地域組織へのPR、試行**

④ **参加できない・しない保護者**
（困難を抱える保護者）への**支援**
→ **相談活動（おしゃべりサロン）の継続、充実**



ご清聴ありがとうございました。

